

## 1 事業の実施にあたって

富士市文化振興財団は、平成4年の財団設立以来、28年間にわたり、富士市文化会館ロゼシアターを活動拠点として、会館の管理運営に取り組んできました。

この間、実施した自主事業は1,100事業を数え、令和2年1月末までの当会館の利用者は、累計で1,186万人を超えるなど、富士市を中心とする地域住民の文化芸術活動を支援するとともに、静岡県東部地域の文化芸術の発展に貢献してきました。

施設面では、開館から四半世紀以上を経て会館施設の老朽化が進んでおり、富士市は、会館の長寿命化を図る長期改修計画の一環として、令和2年1月から3月にかけて、空調設備や電気設備等を更新するE S C O事業による大規模改修を実施し、財団として全面的な協力体制をとりました。

また、令和2年度は、当財団が市より5年間の第4期目指定管理者に選定された2年目となります。4月からは消費税増税に伴う施設利用料金が改定され、利用する環境も変化してきていることから、さらなる努力を重ね、利用者に満足していただける会館の管理運営と自主事業を展開していきます。

会館運営にあたっては、E S C O事業で改修された空調設備や電気設備等の維持管理にあたりるとともに、さらなる利用環境の充実と安定したサービスの提供に努めていきます。

施設設備の保守管理については、今回の改修で更新された設備・機器以外にも、劣化による更新時期が迫るものもあり、市が実施する工事・修繕に万全の協力体制をとるとともに、ホール座席の修繕を継続するほか、消耗部品の交換、不具合箇所の修繕、舞台設備の保守整備など施設の維持保全に努めます。

自主事業については、要望の多いアウトリーチ事業を拡充し、地元アーティストへの活動機会を提供するなど、積極的な自主事業の展開を図ります。また、市と連携をとりながら、東京オリンピック・パラリンピック関連事業に協力していきます。

当財団は、今後も市民が利用しやすい会館運営に努めるとともに、市民が様々な文化芸術に触れ、楽しめるような環境づくりを行い、これまで培った経験と実績を活かし、文化芸術事業等に還元するために、尽力していきます。

## 2 管理運営事業

近年、会館の利用者数は、なだらかな減少傾向にあり、年間利用者の過去5年間の平均は、約42万9千人です。地域人口の減少、少子高齢化等の影響のほか、インターネットメディアの普及による情報発信の多様化なども一因と考えています。しかし地域では、音楽、演劇、舞踊、美術、書道等、幅広い分野にわたり、数多くの市民、文化団体、活動グループが、活発な活動を展開しており、ロゼシアターとして、引き続きこれら活動を支援すべく発表機会の提供、環境の整備に努めます。また、今後はコンサート、演劇公演、コンクール等の大規模文化催事のほか、研究大会、コンベンション等の利用促進にも注力し、年間利用者数45万人を目指します。

(5年毎の平均施設利用者数の推移)

期間	5年間の利用者数計	年平均
H6～H10	2,258,275	451,655
H11～H15	2,249,981	449,996
H16～H20	2,396,958	479,391
H21～H25	2,202,583	440,516
H26～H30	2,146,257	429,251

施設面では、ESCO事業により導入された設備・機器が本格稼働されます。館内のホール、ガレリアを除く各施設、共用部の照明機器はLEDタイプに更新され、会議室や練習室等の空調機器は、操作性、利便性が向上しました。また、会館全体の基幹設備ともいえる熱源、空調、受変電機器も温室効果ガス排出を抑制する機器構成にリニューアルされており、安定的な運用とともにエネルギーコスト削減効果が期待されます。

館内の設備については、今回の改修で更新された設備・機器以外にも、劣化により更新時期が迫るものもあるため、今後、市と協議をしながら、計画的に保全を図ります。

災害対策に関しても万全の備えを講じます。消防訓練の実施、AED（自動体外式除細動器）の増設、職員の防火管理講習の受講機会の拡充を図るほか、様々な災害や緊急時を想定した対応策についても検討します。特にこの数年、大型台風やゲリラ豪雨など、甚大な被害をもたらす気象災害が、増加傾向にあります。施設の安全対策の充実、職員の防災意識の啓発に努めます。

### 3 自主事業

#### (1) 自主事業計画方針

令和2年度は、当財団が4期目の指定管理者として5年間の管理運営を任されている2年目にあたります。

平成25年度に富士市が策定した『富士市文化振興基本計画』では、「こころ豊かな人を育てる文化のまち」～人が文化を創り、文化が人を育てる～を基本目標とし、この目標を実現するため、“文化に親しむ機会の充実、発表の場の提供”、“文化を担う人材の育成・支援”、“文化に親しむ子どもたちの育成”など、8つの施策の方向性を示しています。財団の自主事業においても、この基本目標に則り、富士市をはじめこの地域に根差した文化の創造、鑑賞機会の提供に努めます。

その中で、会館に足を運ぶことが難しい方々が気軽に文化芸術に親しめるように、アウトリーチ事業に関しては、特に力を入れて取り組んでいきます。病院・福祉施設・幼稚園などに出向く「おでかけクラシック」、小学校や支援学校で、クラス単位等の小規模で開催し、アーティストと子どもたちとのコミュニケーションを密にすることで、音楽を身近に感じられるような機会の提供を目指す「おでかけ芸術教室」。令和元年度に始まった市内まちづくりセンターで実施する「マタニティコンサート」は、反省点などを踏まえたリニューアルを行い、更に多くの方々にご来場いただけるように努めます。なお、上記3事業への出演は、富士市内及び近隣市町で活躍するアーティストを起用し、演奏する機会の提供もあわせて行います。

また、市民ミュージカルの有志で作る実行委員会が主導し、10年の実績を誇り高く評価されている「おでかけミュージカル」、参加者の拡大及びロゼシアターの市民ミュージカルの周知を目的とする「ミュージカル体験ワークショップ」も継続して開催します。

広報事業として、SNSを効果的に使い、様々なメディアを活用した多角的かつ有効的な広報展開や情報発信にも力を注ぎ、自主事業を構築します。

この他、地域の文化団体との連携や交流を積極的に行い、文化活動をする機会を充実させ、今まで以上に地域に根差した文化会館づくりに努めます。

令和5年度の開館30周年に向けて、記念事業の計画を進めていきます。また、昨年度より参画している東京オリンピック・パラリンピック富士市文化プログラムの実施に向けて、協力体制を整えます。

令和2年度も、市民が文化芸術に触れ、楽しめるような環境づくりを行い、様々な文化事業を実施し、地域文化の振興、人材育成、交流の促進、文化情報発信に力を注いでいきます。

## (2) 自主事業の概要

当財団は、富士市文化会館を地域文化の拠点として、市民文化の創造と発信の場としていくために、市民文化の振興を目的とした独自の自主事業を展開していく必要があります。

自主事業は、事業の目的毎に「普及事業」「育成事業」「創作事業」「交流事業」「鑑賞事業」「広報事業」に分かれており、令和2年度も各事業に応じたプログラムを計画的に実施していきます。

普及事業では、クラシック音楽の普及と優れた芸術文化に触れる機会を提供することを目的としたふじ少年少女芸術劇場「小・中学生招待コンサート」や「小学校学校コンサート」等を行います。

育成事業では、未就学児でも入場可能な「ロゼこどもスプリングコンサート」や「ロゼこどもコンサート」、地元出身の演奏家による「新人音楽家による演奏会」などに加え、地域で吹奏楽に親しむ中高生を対象とした「シエナ・ウインド・オーケストラ アンサンブル・ワークショップ」を開催します。同楽団とは、様々な形で連携し事業展開していくことを計画しています。展示部門では、18回目となる「新進アーティスト作品展」を開催します。

創作事業は、平成10年より継続して開催している市民ミュージカルを行います。演目は過去2回上演している「新説・竹取物語～THE TAKETORI STORY」を予定しています。

交流事業では、地元文化団体の協力のもと、館内施設を活用した「スタンプラリー」や「トレインフェスタ」、アウトリーチ事業として「おでかけ芸術教室」「おでかけクラシック」「マタニティコンサート」「おでかけミュージカル」を実施します。

鑑賞事業は、幅広い世代が、様々な文化芸術をお楽しみいただけるよう音楽から古典芸能等、多彩なジャンルの公演を行います。音楽公演では、ベートーヴェン生誕250年を記念した「仲道郁代ピアノリサイタル」、テレビでも活躍中の「木嶋真優ヴァイオリンリサイタル」、チャイコフスキー国際コンクールで2位を受賞した「藤田真央ピアノリサイタル」を開催します。古典芸能では、「松竹大歌舞伎」「ふじ寄席 春風亭昇太独演会」を開催します。また、アンケートでのリクエストも多い「劇団四季」や17回目の開催となる「ロゼフォークプラザ」を行います。

共催事業では、実行委員会形式で実施する「ロゼピアノコンクール」をサポートし、演奏者の育成を支援します。

この他、広報事業として多彩な芸術文化情報を広く市民に提供するため、「文化情報誌ロゼ」や静岡県東部地区を主対象に総合チラシの新聞折込を行う「ロゼナビ」を発行し、自主事業の周知に努めます。

令和2年度も、幅広く市民のニーズに応えるよう、多種多様な自主事業を展開していきます。